

# 説明文における段落の要点を読みとらせる指導(3年)

(題材 日本には、なぜ、木で作った家が多いか。)

足利市立東小学校 刑部しげる

## I はじめに

学習指導要領に示された第3学年の読むことの重点は「要点をおさえて読むこと。」である。それには、文ひとつひとつの正しい意味を理解することから出発しなければならない。文と文を読みくらべ、意味のちがいを調べたり、ことばはちがっていても同じことが書いてあるといった同質性をさぐるなどの思考の操作があって、はじめて、要点や段落の読みとりができるのである。

また、児童がじゅうぶんに思考をはたらかせて読みとるためには、教師の発問により受動的に読み進めるのではなく、問題意識を持ち主体的に読み進める態度が必要である。

そこで、全文を見通し、学習の中心(読みのねらい)を決め段落ごとの読みにはいるという指導過程をとった。段落の読みにあたっては、全文の見通しの上にならって“たいせつな文”を選択させ、さらに、段落のはじめのことばに注意し段落関係を明らかにしていく学習をとおして、文章の意図を読みとらせようとした。この実践記録は段落の中のたいせつな文を選択させる指導をまとめたものである。

## II 教材研究

### 1. 教材の系統・内容

この単元は3年の上巻「7. せつ明文を読む」(めずらしいしよくぶつ)の単元をうけた説明文読解の本格的技能をのばそうとしたものである。「めずらしいしよくぶつ」では興味に訴えて植物の生態にふれた理科的な内容の文章を読ませたのに対し、建築物と貨幣の発達に関する理由づけを読みとるという社会科的内容の文章を読ませることにより、本格的な説明文に近づけようとしている。なお3年下「今のしょうぼう」「むかしのしょうぼう」、4年下「方言とひょうじゅん語」「車が發明されるまで」「列車の速さ」などに発展するものである。

「日本には、木で作った家が多い。」「銀貨や銅貨はまるい形をしている。」といった社会事象でも改めて考えてみると、それ相当の意味や理由がある。ここにとりあげられた二つの文章は、はじめに疑問を投げかけ、次にその解答をのべるといった形式をとっている。しかも、その解答部分には二つ以上の理由がのべられている。ここでは、とりあげられている問題と、理由のひとつひとつをたんねんに読みとらせ、正しく意味をつかませるところにねらいがある。また初期の説明文としては、典型的なものと考えられるので、説明文の読みとりかたをしっかりと指導することが必要である。また、学習指導要領に示されている「要点をおさえて読むこと。」という。3年の指導事項を達成するためにも適切な教材といえよう。

2. 文章・文・語い

日本には、なぜ、木で作った家が多いか。  
問題提示部分

- ①.....
- ②.....
- ③.....
- ④日本には、なぜ、木で作った家が多いのだろうか。

理由1

⑤その大きな理由は、日本には、家を作るのによい木がたくさんあるということである。

⑥.....

理由2

⑦また、木で作った家は、しめり気がへやの中にももらないという理由もある。

⑧.....

⑨.....

⑩.....

理由3

⑪それから、木で作った家は、わりあい地しんに強いということもある。

⑫.....

⑬.....

⑭.....

解答部分

まとめ

⑮このようにわけで、日本の国には、木で作った家が多いのである。

文章構造を上記のようにまとめたが、特に段落を展開していることばに注意してみると、問題に対する理由が三つのべられている。問題提示の段落と解答部分の段落では説明の進め方が逆になっている。すなわち、問題提示の段落では、①②③の文で事実や現象をのべ④の文で問題を提示している。この段落では④の文がたいせつな文になっている。解答部分の三つの段落は、いずれも、段落のはじめに、たいせつな文をのべ、次に、細かい説明や解説をつけくわえている。例えば、理由1では、⑤の文で「日本には、家をたてるのによい木が、たくさんあるということである。」と結論を先にのべ、⑥の文で「よい木」のことを「すぎ、ひのきなどの木」と具体化し、「たくさんある」というところを「日本じゅうどこにでもあって」とくわしく解説している。

次に、接続語についてみると、

- ……家が多い。 **ところが** 日本には……
- ……入れやすいのである。 **また、** 木で作った家は……
- ……少ない。 **それから** 木で作った家は……

などの例があるが、前とあとをどうつないでいるかをわからせ、接続語のはたらきや使い方などにもふれたい。

特に注意する語として

- 理由がのべられている。
- すぎ、ひのき
- 手に入れやすい
- こもる
- 風とおし
- わりあい

などがある。

新出漢字は「理由」、読みかえ漢字は「外国」などがある。

### 3. 児童の実態

- 論理性があり、統辞性が強い。
- 順をおって述べており、それぞれの段落がはっきりわかれている。
- 要約的であり、感覚的表現が少ない。
- 一つ一つの段落の内容や順序に緊密な有機的関係がある。

などの要素を含む説明文の読みはじめてである。文、段落、接続語、指示語などについて、どの程度理解しているか調査した。結果は次のようである。

センテンス番号について

会話文がなげればできる (会話文があってもできる)	29人 (22人)
できない	1人

段落について

段落にまとめることができる (意味段落にもまとめることができる)	23人 (7人)
できない	7人

接続語について

接続語のはたらきがわかる (逆接、並列の用法のちがいもわかる)	26人 (8人)
わからない	4人

指示語について

指示語のはたらきがわかる (どのことばをさしているかわかる)	29人 (26人)
わからない	1人

学級の児童数 男15 女15 >計30人

文については特別な児童をのぞいては、番号をうつことができ、理解されている。段落の面では、形式段落は意識され、理解されているが、内容的なまとまりとしてとらえる段落の考え方は、まだよ

くできていない。書き手の考えたすじみちを明確（論理的）に示すものが接続語である。正確に読みとらせるうえで、だいじな手がかりとなるものである。しかし、文と文をつなぐことばであるという理解はできても、逆接、並列などの用法のちがいについて理解している児童は少ない。次に、指示語についてみると、文中のことばなどをさすことばであることは理解しており、どのことばをさしているかも大部分の児童はわかっている。少数の児童については、指示されている語を下の方からみつけ出したりして、意味やはたらきなども、よくわからない。

次に児童のノートからわからない語句を書きぬいたものを示すと、

すぎ、ひのき	20人	わりあい	5人
しめりけ	12人	風とおし	3人
ひじょうに	4人	けれども	2人
こもる	16人	のべる	2人
手に入れる	7人	たいてい	3人

以上のような生活環境から「すぎ・ひのき」を知らないということは、うなづけるが、「ひじょうに」「わりあい」「たいてい」など、日常使いなれていることばが、わからないというのは疑問である。聞く・話すことばとしては理解できても、文字化された読むことばとなると抵抗を感じるのだろうか。また、「のべる」「こもる」などの動詞は、児童の生活語としては使われていない。

#### 4. 指 導 法

- 段落の要点を読みとらせる方法としてはキーワード法、同類語法、集約法などいろいろあるが、ここでは、段落ごとのたいせつな文を選択させる方法をとった。要点とは、たいせつなところという意味であるから、文章の要点とは、文章の中のたいせつなところといえる。実例や細かい説明ではなく、それらをまとめて表わしているところ、すなわち、書き手の意図や主題の表われているところである。また、読み手の立場からすれば、読む目的からみて必要なのともいえる。これを児童には学習の中心としてとらえさせた。次のような見方で、たいせつな文をえらばせたのである。また国語のスキルブック3年の「6 だいじなところ」でも、要点の指導をした。

-----たいせつな文のえらび方-----

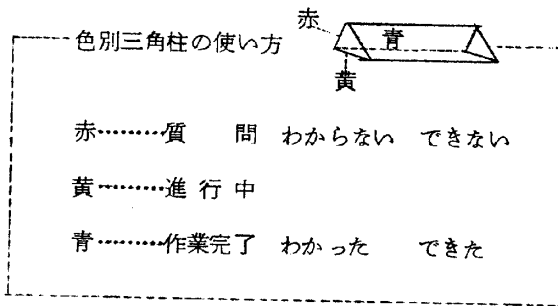
- ・ 読みの目的（学習の中心）からみて、必要なところ。
- ・ 実例やこまかい事実の説明でなく、まとめて表現しているところ。
- ・ 書き手の意見のでているところ。
- ・ 原因を表わす部分ではなく、結果を表わす部分の中に。
- ・ どうしても、ぬかすことができないところ。

- 段落のまとめ方も、一字さげのところでも形式的にまとめるのではなく、並列した文のひとつひとつの意味を考えさせ、内容のまとまりとして、とらえさせた。段落指導においても、比較、因果、依存、包摂など思考操作をじゅうぶんさせた。

- 学習の個別化をはかるために、作業用紙を与え、予備学習をさせた。

	文の番号	学習の中心	この文しょうでいたこと	だい
	文			
	たいせつな文			
	だんらく			
	まとめ			

以上のような作業用紙に「文」「たいせつな文」「だんらく」のところまでは各自が家庭で予備学習してくるようさせた。また個別化の一つのくふうとして、色別三角柱を各自に持たせた。教師の発問に対してどの児童も反応させるため、また、他の児童の思考活動をさまたげないしずかな学習態度をねらいとして与えた。また展開における終末には学習事項の自己評価にも使用させた。



- 学習形態はグループ学習の形をとった。各段落の要点をグループごとに話し合いさせ個人の考えを修正あるいは確認させ、学級全体でまとめるというルートで学習させた。グループは男2女2の4人編成である。

### III 指導の実際

#### 1. 指導案

#### 国語科学習指導案

昭和42年11月28日

3年1組 指導者 刑部しげる

#### 1 単元名 せつ明文を読む

- 2 目 標 (1) どのような問題がとりあげられているか考えて読むことができるようにする。  
 (2) どんな理由をあげて説明しているか、その理由が読みとれるようにする。  
 (3) わからない語句や文字を見つけ出すことができるようにする。

- 3 指導計画 ..... 総時数 14 時間
- (1) 単元を概観し、学習の計画を立て、文字・語句の指導をする。--- 1 時間
- (2) (一)日本には、なぜ、木で作った家が多いか。..... 4 時間  
 ア 全文を見通し、学習の中心を決める。 (1)  
 イ 文相互の関係から段落にまとめ、問題提示の部分と第 1 の理由を読みとらせる。 (1)  
 ウ 問題に対する第 2, 第 3 の理由を読みとらせる。 (1)(本時)  
 エ 説明文の構造を調べ、まとめをさせる。 (1)
- (3) (二)銀貨やどう貨は、なぜ、まるいか。..... 4 時間
- (4) 他の説明文を読ませる。(社会科なぜなぜ教室)..... 3 時間
- (5) ことばの練習・テスト..... 2 時間

- 4 本時の指導(1) 題材名 日本には、なぜ、木で作った家が多いか。  
 (2) 目 標 「日本には、なぜ、木で作った家が多いか」という理由をとらえるために、指示語や接続語などに注意して読ませ、三、四、五段落の要点をまとめさせる。

展 開

	指導事項	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資料及び関連	評価の観点
導 入		1. 前時の学習活動を想起する。	• どのような問題がとりあげられているか再確認させる。	• センテンスカード	
展 開	要点をおさえて読むこと。	2. 本時の学習のめあてを確認する。  3. 指名読をしたのち、予備学習してきたことをもとにして、三、四段落のたいせつな文についてグループで話し合う。	• 問題に対する理由を読みとるために、さすことばやつなぎことばに注意して、大切な文を選んで段落のまとめにすることがねらいであることを確認させる。 • 常に文章の全体観に立つために読ませる。 • 文章に即して考えるということを意識させて発表させる。 • たいせつな文は、「学習の中心」をもとにしてえらばせる。 • グループの話し合いが終わったら色別三角柱で示させる。	• 作業用紙  • 色別三角柱	適切な大きさの声で話すことができるか。

開	適切な大きさの声で話すこと。	<p>4. グループで話し合ったことを発表し、学級全体でまとめる。</p> <p>5. 結びの部分を読みとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでできたことと、個人の考えが異なると、場合によっては別三角柱で区別させる。</li> <li>・段落の要点がすなわち理由になっていることがはっきりわかるのは、段落のはじめのことばであることに気づかせる。</li> <li>・理由をのべている段落ではどれも、結論を先にのべてあとに解説を加えていることにもふれたい。</li> <li>・「こういうわけで」はどことらがをさすか、しっかりおさえる。</li> <li>・指導する語句 こもる、ひじょうに、わりあい、風とおし、そのため、～もある。また、それから、けれども、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年上 「めずらしいしよぶつ」</li> <li>・3年下 「今のしゅうほう」「むかししゅうほう」</li> <li>・4年下 「方言とひょうじゅん語」</li> <li>・4年下 「車が発明されるまで」</li> <li>「列車の速さ」</li> <li>・家の絵や写真</li> </ul>	<p>要点をおさえて、理由が読みとれたか。 (作業用紙発表、自己評価)</p> <p>指示語や接続語の意味がわかったか。(発表)</p>
終末		<p>6. 作業用紙を整理し、学習のまとめをする。</p> <p>7. 予備学習について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤りがあったら赤で訂正させる。</li> <li>・二、三、四段落の大切な文がえらべたか自己評価させる。……</li> <li>・学習意欲を高めるために課題を出す。</li> </ul>		<p>作業用紙にA、B、Cの三段階を記入させる。</p>

2 授業の記録

T…教師, P…児童

G…グループ

(P<sub>1</sub>, P<sub>2</sub> というのは固有名詞ではない。答えた順と) (G<sub>1</sub>, G<sub>2</sub> は、1ばん) 発問に対していくつの発表があったかわかるようにした。 (2ばんという意味である。)

学習活動	教師の発問(動き)	児童の反応・動き
1. 前時の学習活動を想起する。	<p>T きのうは1と2段落を調べましたね。1の段落のたいせつな文はどれでしたか。</p> <p>T ④の文はこの文章全体からみると、何を言おうとしていますか。</p> <p>T では2の段落は、どうでしたか。</p>	<p>P (いっせいに) ④の文です。</p> <p>P (いっせいに) 問題です。</p> <p>P<sub>1</sub> 理由が書いてありました。</p> <p>P<sub>2</sub> 問題に対する答えが書いてありました。</p> <p>P<sub>3</sub> わけが書いてあります。</p> <p>P<sub>4</sub> ⑤の文の方がたいせつな文です。</p>

2. 本時の学習  
の目あてを確認する。

T そうですね。1段落では問題、  
2段落では、その答えを書いて  
いますね。きょうは、つづいて  
3.4.5段落のたいせつな文をさ  
がしましょう。では、学習の目  
あてを読みましょう。  
(学習のめあてのカードを示す)

T 学習のしかたは、グループの話  
し合い、全体でのまとめ、とい  
うように今までやってきたよう  
にしましょう。たいせつな文の  
みわけ方を復習してみましょう。

3. 指名読、グ  
ループの話し  
合い。

T では、はじめに、読んでもらい  
ます。(2名の児童を指名する)  
T ふたりとも、とてもよく読めま  
した。ではグループで3.4段落  
のたいせつな文を話し合っ  
てください。  
国語の司会者おねがいます。  
信号を使ってください。

P (いっせいに)「日本には、なぜ、木で  
作った家が多いか」という理由をとらえ  
るために、つなぎことばやさすことばに  
注意して、段落ごとにたいせつな文をえ  
らぶ。

P<sub>1</sub> 学習の中心にあった文です。

P<sub>2</sub> 学習の中心から考えてみて、必要な文  
です。

P<sub>3</sub> その文をぬかしてしまうと意味が通じ  
なくなったり、かわってしまったりす  
る文です。

P<sub>4</sub> 例をあげているところではなくて、ま  
とめたい方をしているところです。

P<sub>5</sub> さんにつけくわえて、

P<sub>5</sub> ぬかすことのできない文だから、その  
文だけ、ぬかして読んでみればよいと  
思います。

P<sub>6</sub> P<sub>4</sub> さんにつけくわえて「たとえば」  
などということばがあるのは、たいせ  
つな文ではないと思います。

P<sub>7</sub> 書いた人のいちばんいいところ  
です。

P<sub>1</sub> (1.2段落を読む)

P<sub>2</sub> (3.4.5段落を読む)

P (4人グループで話し合いにはいる。)  
三班の話し合いのようす。(3段落につ  
いて)

司会 3段落のたいせつな文をえらびます。  
意見を発表してください。

P<sub>1</sub> ⑨の文だと思います。「しめりけが  
へやの中にももらないたて方がたい  
せつになってくる」という文だと思  
います。

P<sub>2</sub> わたしは⑩だと思います。⑨の文は、  
たてかたのことをいっているのだと  
思います。⑧の文は日本は空気がし  
めっていることをいっています。だ  
から⑧と⑨はちがって、⑩だと思  
います。



- ・(質問の信号の出ているグループでの個別指導)
- ・(話し合いの終わったグループへの指導)
- ・(グループの人数に合った声の大きさについて、個別指導する。)

4. 全体でまとめ。

T では、これから、まとめにはいります。  
グループの意見と個人の考えがちがった人は、信号を赤に

P<sub>3</sub> ほくは⑦の文にしました。⑩の文も⑦と同じようなことをいっていますが、石やれんがの家のことなんか違って木の家とくらべているので、⑩の文は⑦の文をもっと、わかりやすく説明しているのだと思います。

P<sub>1</sub> P<sub>3</sub> の意見をきいていたら⑦の方がよいと思います。それに、学習の中心から考えても、⑦がっていると思います。

司会 ⑦と⑩が問題になっていますがわたしも意見をいわせてください。  
わたしは、⑦の文にしました。それは、「また〜という理由もある。」と書いてあるでしょ。ここでは理由を読みとるのが学習の中心だから、⑦がよいと思います。

P<sub>2</sub> さっき、⑩の文といったけど、やっぱり⑩の文は、⑦の文をもっとくわしくしているような気がするね。

司会 では、⑦の文にきめていいですか。

P いいです。(グループのみんな)

五班の話し合いのようす(4段落について)

司会 4段落のたいせつな文をきめます。

P<sub>1</sub> ⑬の文だと思います。

P<sub>2</sub> P<sub>1</sub> さんにききますが、⑬の文は、木の家のことではなくて、石やれんがの家のことをいっているのではありませんか。だからわたしは、⑭の文だと思います。この文は、木で作った家のことをいっているからです。

司会 P<sub>1</sub> さんどうですか。

P<sub>1</sub> ⑭だけでは、何にくらべてくずれにくいかわからないから⑬と⑭の2つがよいと思います。

P<sub>3</sub> ほくは、⑬と⑭では、書いた人はどちらのことを言いたいか考えたら、木の家のことを言いたかったんだと思います。だから⑭です。

司会 わたしも、この文章は木の家のおせつめいがしてあるし、学習の中心も木の家が多い理由を調べるのだから、⑭でよいと思います。

P (グループのみんな)さんせい。

司会 では、これにきめます。

してください。

三班, 3段落を発表してください。

(⑦の文のカードを1段さげておく。)

(⑩の文のカードを1段さげる。)

T さあ, 決まったようですね。たしかに6班がいていたように, ⑦と⑩は同じ意味ですね。しかし, ⑦の方がたいせつな文だというのは, 4班が言っていたように⑩の文は, もういちど, いなおした文ですね。⑦の文のくわしいせつめいを, ⑧, ⑨, ⑩でしているのですね。(⑦の文のカードを下にさげる。)

T ⑦の文が理由をあげているというのは, どのことばでわかりますか。

T 特に, この④ですね。「～という理由もある。」に~~~~をつけ※※もを○でかこむ。)

T ほかにはないかな。  
(「また」に~~~~をひく)

T よく気がついたね。この「また」というつなぎことばは, つけた

G<sup>3</sup> わたしの班では, ⑦の文にしました。そのわけは, 学習の中心から考えてみると, ここでは理由を読みとるのでから, ⑦の文にしました。意見があったら発表してください。(G<sup>3</sup>が司会になって進める。)

G<sup>2</sup> さんせいです。⑦の文でまとめて表わして, そのあと, ⑧⑨⑩の文でくわしく説明しています。

G<sup>1</sup> 1班も, 3班にさんせいです。  
⑦の文をぬかして読んでみると, よくわからないからやっぱり⑦がたいせつでした。

G<sup>3</sup> 反対のグループはありませんか。

G<sup>6</sup> ぼくたちのグループは⑩にしました。⑦と同じようなことをいっている文で, ⑩の方が石やれんがの家とくらべたりして, わかりいいからです。

G<sup>4</sup> 4班は, ⑦にしたのですが, ⑩の文は⑦の文をいいかえているのだと思います。だから, 同じ意味でも, ⑦の方がたいせつだと思います。

G<sup>5</sup> 「また, ~という理由もある。」とまとめたいいかたをしていると思います。だから⑦の文だと思います。

G<sup>3</sup> では, ⑦の文でいいですか。

P (みんな, 口々に)いいです。

P<sup>1</sup> 「～という理由もある。」でわかりません。

P (みんな)いいです。

P<sup>2</sup> 「また」ということばはちがいますか。

P<sup>3</sup> そうそう, 「また」もわかります。理由をひとつ言っただけ, まだあるので, つけたしているのだと思います。

P (みんな)いいです。

したり、同じようなことをならべていったりするときに使うのだね。

T⑧の文の「そのため」の「その」はどのことばをさしていますか。(「その」に＝をつける。)

- P1 ⑧の文全部をさします。  
P2 「空気のしめっている時がひじょうに多い」をさします。  
(作業用紙の⑧の文に線をひく。)

Tさされることばに線を引いてごらん下さい。この場合は、前の文をさしていますね。さされていることばを「その」の所におきかえて読むとわかりますね。(⑧の文を→印でさす。)

(そのに⑧の文を入れて、一斉に読む。)

Tわからないことばしらべて、「こもる」「ひじょうに」「風とおし」が多かったですね。考えてみましょう。短文を作ってください。どんな意味でしょうね。

- P1 へやの中にけむりがこもる。  
P2 よわむしは、家の中にとじこもっている。  
P3 さかなのにおいが、台所にともっている。  
P1 いっぱいになる。  
P2 でないで、中にはいっていること。  
P3 外へ出ないこと。

Tこの2つの文をくらべてみましょう。

㊤先生は、すもうが強い。  
㊦先生は、ひじょうにすもうが強い。

- P1 ㊦の文の方が強そうです。  
P2 ㊤の文は、ふつうぐらい強いみたいです。  
P3 うんと強いというのは、㊦の文です。

(カードに書いたものを示す。)  
Tそうですね「ひじょうに」があると意味がつよくなりますね。この文を強めてごらん。

植木君は、かけっこが早い。

T「風とおし」はどうですか。

- P (いっせいに)植木君は、ひじょうにかけっこがはやい。  
P1 風がふいてとおること。  
P2 窓をあけると、風がはいてくるでしょ。風とおしがよくなるといいます。  
P (みんな)いいです。

Tそうですね。では、3段落のたいせつな文をみんなで読みましょう。

P ⑦の文のいっせい読み。

Tでは、4段落を発表してください。

G5 5班では⑭の文にしました。意見ありますか。

(⑭の文のカードを1段さげる。)  
(⑮の文のカードを1段さげる。)

G1 5班とちがって⑮の文にしました。

T 学習の中心から考えたり、まとめた方がいいかたをしてみたり、ぬかしてよいかどうかためしてみたりして、⑪の文がたいせつだということがわかりましたね。

⑪の文は理由をのべていることがわかるのはどのことばですか。  
(「それから」に~~~~をつける。)  
(「~ということ⑧ある」に~~~~をつける。)

T そうですね。「それから」も「また」というつながりことばと同じで、ならべたり、つけたしたりするときに使いますね。

T そのほかに、つながりことばがありますか。  
(⑫の文の「けれども」に線をひく)

T どんなときに使うのでしょうかね。

⑪の文は、まとめた方がいいかたをしています。

⑫の文は、地しんが多いこと、⑬の文は石やれんがの家のこと、だから⑪がいいと思います。

P<sub>1</sub> (個人の意見)

ぼくは5班に賛成で⑭にしました。

⑭の文は、木で作った家のことをいっているからです。

G<sub>3</sub> たしかに⑭は木の家のことをいっていますが、⑪の文の「木で作った家は地しんに強い」というところにはいってしまおうと思います。だから、⑪だと思います。

G<sub>2</sub> 2班でも⑪にしました。⑫⑬⑭の文は、くわしい説明だと思います。

G<sub>4</sub> ⑪にさんせいです。3だんらくと同じように、「それから~ということもある」とあるので、2つの理由のほかに、もっとあるから、それからといってつけたしているのだと思います。

G<sub>7</sub> ⑪にさんせい。⑪をぬかして読んでみるとおかしいと思います。

G<sub>5</sub> では⑪の文にきめていいですか。

P (みんな)いいです。

P<sub>1</sub> 「それから」ということばです。

P<sub>2</sub> 「ということもある」です。

P<sub>3</sub> P<sub>2</sub> さんにつけたして「も」がたいせつだと思います。

P<sub>4</sub> P<sub>1</sub> さんの「それから」は、「また」という3段落のはじめのことばと同じだと思います。

P (みんな)でけれども

P<sub>1</sub> 文をつづけていくときつかう。

P<sub>2</sub> 反対のことをいうときに使います。

P<sub>3</sub> P<sub>2</sub> さん同じようで、今までのべたことと、ちがうことをのべるときに使

T「そうですね。「けれども」と「ところが」は同じ使い方ですね。「また」と「それから」は、つけたすときに使うつなぎことばでしたね。

(「けれども」のそばに「ところが」と書く。)

T⑩の文の「わりあい」ということばを調べてみましょう。短文を作ってください。

(「わりあい」に……をつける。)

T.どんな意味になるかな。

T「そうですね。ここでは「わりあい」何だというのでしょうか。そう、「強い」ですね。思ったより強いということですね。

5. 結びの部分を読みとる。

T 5段落の読みとりにはいります。どのことばに注意して読んだらよいでしょう。

(「こういうわけで」に~~~~をつける。)

Tでは、「こういうわけで」というのは、どういうことですか。

Tでは、「こういうわけで」のところ⑤⑦⑩の文をいれて、読んでみましょう。

T日本には、木で作った家が多い理由がいくつのべられています。

ます。

P<sub>4</sub> 「ところが」ということばとにしています。

P (みんな)いいです。

P<sub>1</sub> このみかんはわりあいすっぱい。

P<sub>2</sub> きょうはわりあいあたたかい。

P<sub>8</sub> この道は、わりあいせまい。

P<sub>1</sub> 思ったよりも、考えていたよりもということです。

P<sub>2</sub> 思っていたこととくらべてみて、ということです。

P<sub>3</sub> そうぞうしていたよりです。

P<sub>1</sub> 「こういうわけで」だと思えます。

P (みんな)いいです。

P<sub>1</sub> 前の文、全部をさしているのだと思えます。

P<sub>2</sub> P<sub>1</sub> さんのいうのもまちがいでないと思えますが、⑤⑦⑩の文でよいと思えます。

P<sub>3</sub> P<sub>2</sub> さんに賛成です。「こういうわけで」のわけは、理由のことだから、理由を説明している。たいせつな文でよいと思えます。

P<sub>4</sub> ⑩の文は、この文章全体のまとめになっているから、やっぱりたいせつな文をさしていると思えます。

P (みんな)いいです。

P (いっせいに)読む。

	<p>たか。</p> <p>Tそこで理由の説明のしかたのところで何か気がつきませんか。</p> <p>Tたいせつな文が段落のどこにきていますか。</p> <p>Tいいことに気がつきましたね。理由のところは、たいせつな文を先にのべ、あとから、せつめいをしていますね。</p>	<p>P (いっせいに)三つです。(作業用紙のまとめのところに理由1.2.3と書きこみをさせる。)</p> <p>P<sub>1</sub> 大きな理由からのべています。</p> <p>P<sub>2</sub> 「その大きな理由は」とか「また」とか「それから」ということばではじまっているところがたいせつな文になっています。</p> <p>P<sub>3</sub> たいせつな文が、段落のはじめにきています。</p> <p>P<sub>4</sub> 問題のところでは、たいせつな文がうしろにあるのに、理由のところでは、はじめにあります。</p> <p>P (みんな)いいです。</p>
<p>6. 学習のまとめをする。</p>	<p>Tさあ、これできょうの学習は終わりました。作業用紙を赤で訂正しましょう。なおすところがある人は赤、ない人は青を出して、しずかに文章を読みましよう。(赤の信号を出した児童の個別指導をする。)</p> <p>Tきょうの学習のできばえを調べましよう。</p> <p>三つの理由がわかった。 A</p> <p>二つの理由がわかった。 B</p> <p>一つの理由がわかった。 C</p>	<p>P (作業用紙のまちがいをなおす。) 10人の児童が赤信号</p> <p>P (訂正するところがない。20人は、はじめから、文章を読む。)</p> <p>P 作業用紙に各自の評価を記入する。</p> <p>A……………20人</p> <p>B…………… 6人</p> <p>C…………… 4人</p>
<p>7. 予備学習について話し合おう。</p>	<p>Tあしたは、文章のくみたてについてまとめます。読みとって、わかったことをノートに図のよりにまとめてみましょう。</p>	

3. 板書

せつ明文を読む

(1) 日本には、なぜ、木で作った家が多いか。

めあて

「日本には、なぜ、木で作った家が多いか」という理由をとらえるために、つなぎことば、さすことばに注意して段落ごとに大せつな文をえらぶ。

もんだい

④日本には、なぜ、木で作った家が多いだろうか。

理由1 ⑤その大きな理由は、日本には、家をたてるのによい木がたくさんあるということである。

⑥すぎ、ひのきなどの木が、日本じゅう、どこにでもあって手に入れやすいのである。

二  
だら  
んく

理由2 ⑦また、木で作った家は、しめりけがへやの中にこもらないという理由もある。

⑧日本は世界でもとくに雨の多い所なので、空気のしめっている時がひじょうに多い。

⑨そのため、日本では、しめりけがへやの中にこもらないようにたてかたがたいせつになってくる。

⑩木で作った家は、石やれんがの家より風とおしがよいのでしめりけがへやの中にもることが少ない。

三  
だ  
ん  
ら  
く

理由3 それから木で作った家は、わりあい地しんに強いということもある。

⑫日本は、地しんがひじょうに多い所である。

⑬石やれんがの家は、地しんの時にくずれる心配がある。

⑭けれども、木で作った家はくずれにくい。

四  
だ  
ん  
ら  
く

まとめ ⑮こういふわけで、日本の国には、木で作った家が多いのである。

ところが

4. 作業用紙

だ い	日本には、なぜ、木で作った家が多いか		3の1	対 比 地 邦 子	
この文の文意をよんで	日本には、なぜ、木で作った家が多いのだろうか。		日本には、なぜ、木で作った家が多いかその理由をせつめいしている。		
学習の心算を	どんなもんだいをとりあげているかを考えて読む。それについてどんな理由がのべられているかを読みとる。				
文	文		たいせつな文	だん らく	まとめ
1 2 3 4	1 外国には、石やれんがで作った家が多い。 2 ところが日本には、木で作った家が多い。 3 ふつうの家はたいてい木で作られている。 4 日本には、なぜ、木で作った家が多いのだろうか。		4 日本には、なぜ、木で作った家が多いのだろうか。	一 だ ん ら く	もんだい
5 6	5 その大きな理由は、日本には、家を作るのによい木がたくさんあるということである。 6 すぎ、ひのきなどの木が日本じゅう、どこにでもあって手に入れやすいのである。		5 その大きな理由は、家を作るのによい木がたくさんあるということである。	二 だ ん ら く	理由1
7 8 9 10	7 また木で作った家は、しめりけがへやの中にこもらないという理由もある。 8 日本は、世界でも、とくに雨の多い所なので、空気のしめっている時がひじょうに多い。 9 そのため、日本では、しめりけがへやの中にこもらないようなたて方がたいせつになってくる。 10 木で作った家は石やれんがの家より風とおしがよいので、しめりけがへやの中にこもることが少ない。		7 また木で作った家は、しめりけがへやの中にこもらないという理由もある。	三 だ ん ら く	理由2
11 12 13 14	11 それから、木で作った家は、わりあい地しんに強いということもある。 12 日本は、地しんが、ひじょうに、多い所である。 13 石やれんがの家は、地しんの時にくずれる心配がある。 14 けれども、木で作った家は、くずれにくい。		11 それから木で作った家はわりあい地しんに強いということもある。	四 だ ん ら く	理由3
15	15 とういうわけで、日本の国は、木で作った家が多いのである。		15 とういうわけで日本の国は、木で作った家が多いのである。	五 だ ん ら く	まとめ



#### Ⅳ 反省と問題点

① “たいせつな文の選び方”として選択の視点を与えたのはよかった。しかし、技能として定着させるには作業化まで指導しなければならなかった。授業の記録の中にも、「たいせつな文は、その文をぬかして読んでみればよいと思います。」「⑦の文をぬかして読んでみたら、あまりよくわからないから、⑦の文だと思います。」というように、文のかくし読みという作業を通して読みとろうとしていた児童がいた。このほか、

- ・話題のくらべ読み（話題のかわり目をさがす。）
- ・小見出しをつける読み（自分のことばで要旨をさぐり出す。）
- ・かくれている語句をさがす読み（行間や文のおくにあることばを見つけ出す。物語の場合）
- ・実例と総括的な文をわける読み（こまかい表現とまとめた表現）

など、いろいろな作業方法までも、具体化して指導すべきである。

②終末の自己評価の結果は右のようである。要点は文章の組み立てと要旨の見通しの上で、とらえられるものである。しかし児童がとらえた要点はかならずしもそうではなかった。印象的な読みで終始して、実証的な読みとりにしていない児童がかなり多い。

三つの理由が読みとれたもの	20人
二つの理由が読みとれたもの	6人
一つの理由が読みとれたもの	3人
一つも読みとれなかったもの	1人

段落	誤った例	人数
二 理由1	⑥すぎ、ひのきなどの木が、日本じゅう、どこにでもあって手に入れやすいのである。	3人
三 理由2	⑧日本は世界でも、とくに雨の多いところなので空気のしめっている時がひじょうに多い。	2人
	⑨そのため、日本では、しめりけが、へやの中にこもらないようなたてかたがたいせつになってくる。	2人
	⑩木で作った家は、石やれんがの家より風とおしがよいのでしめりけがへやの中にこもることが少ない。	1人
四 理由3	⑬石やれんがの家は、地しんのとき、くずれる心配がある。 ⑭けれども、木で作った家はくずれにくい。	5人 1人

以上の誤った例を見ると、接続関係や文章の組み立てに注意をむけず、要旨の見通しを持たずに要点をとらえようとしている。文に即して忠実に読まない。経験や生活感情をもとにして自分かってな解釈をくだして読む。たいせつな文とか要点とかの意味がわからずに読んでいるなどといったところに、つまずきがみられた。

③本教材にはいる前に、スキルブックの「六だいじなところ」で、要点をつかむ学習をしたのはよかった。手紙やお知らせの要件はよく理解できたが、学習文六、八、九などはむずかしかった。スキルブックの扱いを本単元の指導計画に位置づけるべきだった。

④個別化の例としてとりあげた作業用紙であるが、個人の学習したことが記録されているために、グループや学級の共同思考におしながされてしまうことがなくてよかった。また修正する所などがはっきりするのでよい。ただ、段落をなぜここでまとめたのか、なぜこれをたいせつな文と考えたのかと

いった思考過程がわかるような形式だとさらに効果があると思った。予備学習として、家庭学習にしたが、初期の指導においては、特に学校で作業させるべきであろう。

⑤反応器としての色別三角柱は、教師の側から児童の実態をはあくするのに便利であった。作業の進行状況、児童の理解度、発問に対するひとりひとりの意志表示など、はっきりわかる。児童も喜んで活用した。「できました。」「はい、はい。」といった思考をさまたげる発言もなく静かな授業が展開できた。ボール紙で作ったので、いたみやすかった。材質の点で改善の余地がある。また活用のしかたなども、なおいっそうの工夫が必要である。

⑥グループの話し合いをとりいれた学習は一学期は準備段落として、少しとり入れ、二学期から本格的に指導した。グループの編成は4人の異質グループであったが、司会を中心によく話し合っていた。特定のグループは個人の主張がつよくて、まとまらないこともあったが、学級全体での話し合いで個人の意見もきくようにした。個人の意見を主張するのは2、3の決まった児童であるが、あたまからおさえず、自由な考え方で発表させ、自分の考えの誤りを自らなっとくさせるようにしなければならぬ。グループの話し合いの場でこそ、思考活動が活発におこなわれるのであるから、グループの指導も重要である。

⑦以上の反省の中から問題点や今後の課題を次のようにまとめた。

- ・ひとつひとつの文の意味をとらえ、文と文との関係から、段落にまとめたり、要点を読みとることができない児童の指導はどのようにしたらよいか。
- ・初期における説明文の読みとり方は、このほかにどんな指導がよいか。
- ・スキルブックを指導計画の中で、どう位置づけたらよいか。
- ・作業用紙は、文の意味や段落にまとめたり、たいせつな文を選び出すまでの思考操作の過程が記入できるような形式がよいのではないか。また、初期においては家庭で学習させることにも問題があるのではないか。
- ・グループの話し合いは児童がいちばん生き生きと活動する場であるから、話し合いのルール、深め方など徹底した指導が必要ではないだろうか。

## V おわりに

以上、つたない実践であるが、常に考えていることは、一時間一時間の授業の中にひとりひとりの児童の学習の成りがなければならないということである。いつもいつも教師が発問により児童の手をひいているような授業ではなく、児童が目や手を動かして学習にとりくむ姿勢こそ学習成立の条件をよくするものになる。そこでわたくしも姿勢を正して毎日の授業にとりくみ、児童をひとり歩きさせたいものである。

## 感 想

まえがきに「児童がじゅうぶん思考をはたかせて読みとるためには、教師の発問により受動的に読み進めるのではなく問題意識を持ち、主体的に読み進める態度が必要である。」と述べているが、このことは、教師の指導の心構えとしてもっともたいせつなことである。とかく子どもの読みの意識を無視して指導しがちであるから。

教材研究については、教材の系統、内容、文章、構造、文、語い等の観点の上でよく分析しており、児童の実態を正しくは握し指導のめやすを立てている点など大いに参考となる。また学習の個別化を図るために作業用紙をくふうしたり、学習反応器具（色別三角柱）を使って子どもの反応を正しくとらえ指導の手をさしのべようとしているところなどたいへん結構な実践である。

反省点に「スキルブックを指導計画の中でどう位置づけたらよいか。」と質問をなげかけているが、方法として2つある。その1つは教材に入る前に位置づける。この場合は教材を読解する上での抵抗点をとり除き、読解を円滑に進めるのによい。もう一つは教材の読解後確認、定着を図るため最後に位置づける場合があり、目的によって位置づけは違ってくる。

総じてこの実践記録は先生方が教材研究や指導実践の際大いに参考となるであろう。